

KANNST DV
NICHT ALLEN
GEFALLEN DURCH
DEINE THAT UND DEIN
KUNSTWERK =
MACH ES
WENIGEN RECHT
VIELEN GEFALLEN
IST SCHLIMM.
SCHILLER

Symbolisme in Europe

世紀末ヨーロッパ

象 徴 派 展



NUDA
VERITAS.



ジャン・テルヴィル「大天使」(1894年)

ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ
「パンドラ」(1871年)



1996 11.1 (FRI)
▶ 12.8 (SUN)

開館時間／午前9時～午後5時(入室は午後4時30分まで) 初日は午前10時開展
毎週金曜日は午後7時まで開館(入室は午後6時30分まで)
休館日は月曜日(ただし11月4日月開館・11月5日火休館)

入場料＝一般900円(720円)・高大生600円(480円)・小中生300円(240円)

- ()内は前売りおよび20名様以上の団体料金
- 高松市に住所を有する長寿手帳・身体障害者手帳および療育手帳所持者は入場無料
- 第2・第4土曜日は小・中・高生無料

高松市美術館 高松市紺屋町10-4
TEL.0878-23-1711

主催＝高松市美術館/四国新聞社/西日本放送 協力＝日本航空

第12回 国民文化祭・かがわ'97

平成9年10月25日(土)▶11月3日(月)





ギュスターヴ・モロー「円柱の前のサロメ」



カルロス・シュワーベ「詩人と靈感の結婚」(1902年)



ピエール・ビュヴィス・ド・シャヴァンヌ「物思い」(1867年)

19世紀末に現れた象徴主義は、物質や光などの現実に固執した自然主義や印象派に対し、直感や自由な想像力などの精神的動向を重要視するもので、世紀末のヨーロッパのあらゆる国々で広く受け入れられました。世紀末において、芸術はすでに自然と競い合うものではなく、ましてやそれを再現するものでもなかったのです。それよりも、固有の知的内容と独自の表現形態を持つ国家各自の至高の世界を表現するものとなっていたのです。

本展は、モロー、シャヴァンヌ、ロッセッティ、バーン＝ジョーンズ、クリムト、クノップフ、ムンクなど著名な画家はもちろんのこと、これまでは知名度が低いという理由で紹介されることが少なかった優れた画家たちの作品も併せ、ヨーロッパの世紀末芸術－象徴主義の全体像を紹介します。また、象徴主義運動を検証し、彼らのメッセージを伝えるとともに、ポーやマラルメ、ボードレールなどの文学者や、ワーグナーやドビュッシーといった音楽家との関連性にも迫るものです。

物質至上主義から逃れ、独自の耽美な幻想の世界を求め、内なる旅へと乗り出していった象徴派の画家28人約150点の作品は、ヨーロッパの美術館や個人所蔵家等の協力のもと一堂に展覧され、世紀末芸術を彩った神秘と幻想、孤独と憂愁の世界に誘います。

● 記念講演会 ●
「世紀末ヨーロッパ 象徴派」
 講師 高橋裕子 (美術史家、千葉工業大学教授)
 11月10日(日) 午後2時より 高松市美術館1階講堂にて
 入場料無料 先着200名様

● 催し物のお知らせ ●
 ミュージアム・ライブ
**「ラファエーレ・トレヴィザーニ
 フルート名曲の夕べ」**
 11月2日(土) 午後6時30分開演 入場料:1,300円



フェルナン・クノップフ「私を解き放つ者は誰?」(1891年)



アントワーン・ウィールツ「イヴ」(1839年)
ベルギー王立美術館、ブリュッセル



フェリシアン・ロップス
「バルペー・ドレヴィリーの『悪魔的なもの』のための口絵」(1886年)